

ロール曲げ機導入

本間鋼業、加工機能を強化

ステンレス流通加工の本間鋼業(本社〓東京都墨田区、本間一彦社長)はこのほど、加工センター(千葉県浦安市)にロール曲げ機を導入した。曲げ加工機能強化の一環。並行してSUS316などの在庫も開始し、ステンレスの鋼材手配から加工までの一貫体制を強化する。

SUS316在庫も開始

導入したのはMIYAI 子町、宮井優希社長) Ai(本社〓大阪府太



4曲した「MR」
入口機「550S」
導本

「MR-555」板厚0.8ミ、幅500ミ、(SUS304の場合)のロール曲げに対応する。トップロール以外の3軸が

可動式のため、ホッパーなどの円すい加工も可能。

同社はこれまで、最長6ミの広幅ベンダーを導入し、人材育成も進めるなど、曲げ加工を強化してきた。加工機能を一段と強化するため、導入を決めた。

ステンレスの加工機能強化に加え、SUS316の在庫も開始した。在庫したのは2B仕上げ材の1.5ミと2ミ厚で、サイズは1524ミ×3048

ミ。すでにSUS304では2B材のほか、400番研磨やヘアライン仕上げ品なども在庫している。

今回の加工範囲拡大や在庫の充実で、納期の短縮やサービス向上を進める。

技能奨励賞

2年連続受賞

優秀板金技能フェア 本間鋼業はこのほど、アマダスクールが開催した「優秀板金製品技能フェア」で、組立品の部技能奨励賞を受賞した。同社としては2年連続の受賞とな

った。

受賞したのはSUS304製の箱型作品「MAGIC BOX」。ベンダー加工を担当する20代前半の若手社員が、スライドレ

受賞作品の「MAGIC BOX」



応募したという。

ルや引き違い扉を曲げ加工で制作した。同社は昨年、SUS304の薄板にエキスパンドメタルのような意匠を、ベンダー加工で再現した「134」で技能賞を受賞している。技能賞を受賞したベテラン社員に感化され、

同社は近年、職場環境の整備や社員のモチベーション向上などの取り組みを進めてきた。加工現場では、多能工化や若手社員が設備導入までの意思決定に参加するなどの取り組みを進めている。本間超常務取締役は「社員はものづくりへの熱意に溢れている。これから社員一人一人が輝くような瞬間を作っていきたい」と話す。

新基幹システム導入

国井興業、データを即時共有

国井興業(本社〓埼玉県熊谷市、井出進社長)は、3月に新たな基幹システムを導入し、4月から稼働を開始した。新システム導入により、データの可視化や、ペーパーレス化を図り、業務効率の大幅改善を推進する。

様にカスタマイズし、見積書、予算計画、物件情報、顧客情報などの各種データや、受注、製作、工事、配車などの業務状況、営業マンの日報などを全社員が閲覧することが可能となる。これにより、それぞれの業務状況をリアルタイムで共有する。

業務効率改善につなげることができると、年間の山積みや生産出荷を簡易に予測することができると。また、ペーパーレス化も一気に進め、事務社員の業務負担の軽減につなげる。さらに、タブレット、スマートフォンなどを